

1 単元名 まとまりに気をつけて読もう
題材 ありの行列

2 目標

- 身近な生き物の生態に興味をもち、自分の体験と結びつけながら文章を読むことができる。 (関心・意欲・態度)
- 読みを深めるために、理解した内容や自分の考えを書くとともに、説明文の書き方を理科の観察文に生かして書くことができる。 (書く能力)
- 「問い」と「答え」を見つけながら、まとまりに気をつけて読むとともに、ありの行列ができるわけを細かな表現に注意しながら読んだり、全体の構成を考えるために大きく読んだりすることができる。 (読む能力)

3 指導上の立場

- 児童の実態

削除しています。

○ 題材観

3年生になると理科の学習が始まり、生き物のさまざまな不思議に興味をもつようになる児童も増えてくる。「あり」は、児童にとって身近な生物であり、誰もがありの巣や行列を観察した経験をしている。そのため、ありの行列がなぜできるかの問いには、興味をもって読み進めることができると思われる。本教材の実験や観察の様子も簡単な方法で児童にも理解でき、自分でも追体験したいと思わせる文章である。

本教材は、低学年で扱った「問い」と「答え」の関係の上に、観察・実験をして、仮説・推論を立て、研究を深めるという、「問い」を解き明かす過程が段落ごとに明確に示されている。そこで、段落で中心となる文を見つけさせ、段落のまとまりを簡潔にまとめさせたい。また、本教材では、「はじめに」「次に」などの順序や時間の流れを示す言葉だけでなく、「この研究から」「このように」など段落の性格を示す役割をもつ言葉が出てくる。文末表現とともに、これらの言葉を押さえながら、段落のつながりや文章全体の構成を考えさせたい。

○ 本単元で工夫する点や手立て

領域を有機的に結びつけた関連的な指導（読む・書く）
説明文教材に、表現活動（書く活動）を取り入れた、単元構想の工夫

- ・ 「段落のまとまり」「段落をつなげる言葉」「全体の構成」など、「ありの行列」で学習したことを生かして、理科で学習したハウセンカ(モンシロチョウ)の観察記録をもとに、観察文を書かせる。

- ・ 読み取ったことを関連づけたり整理したり，また，自分の考えを書いたりできるワークシートを工夫することで読みを深める。

内容のおもしろさとそれを支えている書きぶりのおもしろさの両面を読む学習活動の工夫
--

- ・ 図を使って，ありが巢に帰るときの道筋やウイルソンの実験を確実に読み取らせたり，「ありは，ものがよく見えないのに行列を作ることができる」ことに注目させたりすることで，ありの生態の不思議さや能力のすごさに気づかせたい。また，ウイルソンの行った科学的な取り組みの素晴らしさにも気づかせたい。
- ・ 筆者の書きぶりの工夫を意識させるため，接続語や文末表現に注目させながら，読者に分かり易い書きぶりや文章の構成の工夫に気づかせるとともに，文章全体のおおまかな論理的な流れを把握させるため，読み取りの学習の前に「初め」「中」「終わり」の大きな構成をつかませる活動を取り入れる。

○授業改善の視点

「筆者の立場に立って，細かな表現に注意しながら読んだり，全体の構造を考えるために大きく読んだりすることができる授業」

4 指導計画（全12時間）

第1次 「ありの行列」を読んで感想をもち，学習のめあてをつかむ。

第1時 ありについての経験や知識を発表する。また，「ありの行列」を読んで，感想を話し合う。

第2時 感想から，学習のめあてをつかむ。また，段落の意味を知り，形式段落に番号を振る。

第3時 語句の学習や音読練習をする。

第2次 筆者の書きぶりの工夫や意図を考えながら，段落ごとの内容を読み取る。

第1時 本文を「初め」「中」「終わり」に分けて文章全体の構成を把握し，「初め」（㊦の段落）の役割を理解する。（本時）

第2時 ㊦と㊧の段落から，ウイルソンがどんな方法で調べ，何が分かったか読み取る。（第1の実験）

第3時 ㊨と㊩の段落から，第2の実験・観察結果を読み取る。

第4時 ㊪から㊫の段落から，研究の成果を読み取る。

第5時 ㊬と㊭の段落から，ありの行列ができるわけを読み取る。

第3次 要点をまとめ，文章全体の構成を考える。

第1時 各段落の要点をまとめる。

第2時 段落のつながりや文章構成を理解する。

第4次 説明文の構成を生かして観察文を書く。（理科と関連して）

第1時 理科でまとめたハウセンカかモンシロチョウの観察記録をもとに，観察したことを，まとまりごとにカードに書く。

第2時 構成を考えて観察文を書く。

5 評価

- ありの生態に興味をもち，進んで文章全体の構成や内容を読み取ろうとしたり，学習したことを生かして進んで観察文を書いたりすることができている。

（関心・意欲・態度）

- 説明文の書き方を生かして，観察文を書くことができている。（書く能力）

- 「問い」と「答え」，段落ごとの要点を正しくつかみ，叙述に即してありの行列ができるわけを理解している。（読む能力）

6 本時案（第2次第1時）

<p>目標</p>	<p>「ありの行列」の全文を役割ごとに「初め」「中」「終わり」に分けて文章全体の構成を把握するとともに、「初め」（㊦の段落）の役割を理解する。</p>
<p>学 習 活 動</p>	<p>指 導・支 援 に 関 す る 配 慮 事 項 な ど</p>
<p>1 本時のめあてを確認する。</p>	<p>○ 説明文の三部構造について教え、全文を3つに分けるとしたらどこで分ければよいかを考えることを伝える。 ○ 模造紙で説明文の三部構造を提示し、説明する。 （説明文の組み立て） はじめ これからどんな話をしていくかが、しめされている。（話題がしめされている。） なか 文章全体にかかわる「問い」がだされている。 「問い」について、例をあげたり、実験したりして、りゆうなどをくわしくせつ明している。 おわり まとめ（答え）。ひっ者の考え。つけたし。</p>
<p>「ありの行列」を「はじめ・なか・おわり」の3つに分けよう。</p>	
<p>2 全文を「はじめ・なか・おわり」に分け、文章全体の構造を大まかにつかむ。 ・各自で ・ペアで ・全体で</p> <p>3 ㊦の段落の役割を理解する。 ・「問い」の文を確認する。</p> <p>・①と②の文のはたらきを考える。</p> <p>4 まとめ</p>	<p>○ 分け方を各自で考えさせた後、ペアで話し合わせ、ワークシートに理由を書かせる。 ○ 分からない児童には机間指導でヒントを与える。 ○ 黒板で全文を3つに分けさせ、理由を話し合わせる。 <分け方とその理由として考えられること> はじめ(前文) …㊦（問いがだされているから） なか(本文) …㊧～㊨（実験や研究について書かれているから） おわり(後文) …㊩と㊪（まとめ（答え）やつけたしが書かれているから） ○ この「ありの行列」は、「問い」と「答え」の間に、実験や研究の段落があることを確認する。 ◎ 理由を考えながら全文を3つに分けることができたか。（読む力・話す力）</p> <p>○ ㊦の段落が、問題提示と話題提示のはたらきをしていることを具体的につかませる。 ○ ㊦の段落を全員で音読させ、文番号を打たせる。 ○ 「なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。」が、「問い」の文であることを確認するとともに、「ありは、ものがよく見えないのに」という言葉に注目させ、この問いが、ありが行列をつくることができる理由をたずねていることを確認する。</p> <p>○ ①の文「夏になると、庭のすみなどで、ありの行列をよく見かけます。」と②の文「その行列は、ありの巣から、えさのある所まで、ずっとつづいています。」が話題提示の役割を果たしていることを、①と②の文がある場合とない場合を比較させて考えさせる。 ◎ ㊦の段落の役割を理解することができたか。（読む力）</p> <p>○ 本時で学習したことを確認するとともに、次時の学習の予告をする。</p>